

原 著

Kawasaki Journal of Medical Welfare の ホームページ化について

マイケル・クレメニック¹⁾ 田中昌昭²⁾ 清水研明¹⁾

川崎医療福祉大学 医療福祉学部 医療福祉学科¹⁾

川崎医療福祉大学 医療技術学部 医療情報学科²⁾

(平成10年11月11日受理)

The Kawasaki Journal of Medical Welfare Homepage Project

Michael J. KREMENIK¹⁾, Masaaki TANAKA²⁾ and Kenmei SHIMIZU¹⁾

1) *Department of Medical Social Work
Faculty of Medical Welfare
Kawasaki University of Medical Welfare
Kurashiki, 701-0193, Japan*

2) *Department of Medical Informatics
Faculty of Medical Professions
Kawasaki University of Medical Welfare
Kurashiki, 701-0193, Japan
(Accepted Nov. 11, 1998)*

Key words : homepage, greater communication, on-line journal

Abstract

This paper will explain the project to develop an English language homepage for the Kawasaki Journal of Medical Welfare. The paper is divided into three main sections. The first section delves into the need for better communication amongst scholars and researchers in the wide ranging fields of study covered by the journal. The second section explains how the homepage was made and the third section explains how to use the homepage. The paper concludes with a statement emphasizing the continuing nature of the project.

要 約

本論文は、川崎医療福祉大学の川崎医療福祉学会が発行している英文誌、Kawasaki Journal

of Medical Welfare (以下, KJMW と表記) をホームページ化するプロジェクトの報告であり, 次の三つの部分からなる.

- 1) KJMW は, 掲載される論文の専門分野が多岐にわたり, 研究者同士が自分の狭い専門分野を越えて情報交換し, 意見を交換するのに最適な場であるということと, 外部の研究者も含めて, より迅速で, 効率的なコミュニケーションの必要性の提言.
- 2) KJMW ホームページの作成と開設.
- 3) KJMW ホームページの利用.

はじめに

この論文は, 川崎医療福祉大学の川崎医療福祉学会が発行している英文誌, *Kawasaki Journal of Medical Welfare* (以下, KJMW と表記) をインターネットのホームページとして開設し, 研究者間のコミュニケーションを促進することを目的としたプロジェクトの経過報告である. KJMW の全ての論文のタイトルと著名及びその要約 (英文) にアクセスでき, さらに, 電子メールにより論文の著者と関連領域の研究者とのコミュニケーションも可能になる.

以下に, この KJMW ホームページの内容についてより詳細に説明し, このプロジェクトの特徴を述べる.

研究者間のより効率的なコミュニケーション

KJMW は, 自然科学・社会科学・人文科学の三つの分野からの論文が掲載され, このホームページ開設の目的は, それぞれの分野を越えた研究者間のコミュニケーションをより容易にすることである.

この情報化社会にあっては, 学会誌という形態そのものが, 研究者の要望に十分に答えることができない. すなわち, 学会誌に掲載される論文は, 完結した研究の結果報告であり, 又, 出版される時点においての著者の意見・批評の表明でしかない. この学会誌をホームページ化することにより, 出版という形態では得られない同時性が可能になると考えられる. ホームページ化されることにより, 電子メールを通して, より迅速に, より効率的に論文の著者と, 論文の内容について議論し, 批判することが可能になる. このことは, 論文の著者にとっても, 自身の研究に大いに役立つことは論を待たないで

あろう. さらに, 反論・批判等もホームページ上でアクセス可能になれば, ホームページにアクセスすることにより, 興味を持ったユーザーが容易に議論に参加することが可能になり, 問題が早急に解決し, さらに, 議論に参加したユーザーとの共同研究へと道が開かれることも夢ではない.

このように, 学会誌をホームページ化することにより, 論文の著者と学界・一般社会とのより迅速で, より効率的な交流が可能になり, 研究が停滞し, さらに, 研究の社会的意味が失われることを防ぐことができる.

ホームページの開設

ホームページを作成するには, 様々なプログラムとソフトウェアを使うことができる. ホームページ作成には, HTML (Hyper Text Markup Language) というコンピュータ言語が使用されるが¹⁾, KJMW ホームページを立ち上げるために, ASP (Active Server Page)²⁾と Java Script³⁾をプログラム言語として使用した. ASP は川崎医療福祉大学ハイテク・リサーチ・センター内のサーバー上で作動し, データ・ベースと連携してホームページ作成に使用される HTML を作り出す. Java Script により, インターラクティブなコミュニケーションが可能になり, 例えば, 入力項目のチェックを行なうことができる. データ・ベース用ソフトウェアには, Microsoft Access 97 を使用し, ホームページ用のデータ・ベースを構築した. KJMW ホームページのデータ・ベースは, ホームページ上で必要な情報を蓄積するのに使われる.

ホームページの作成を終え, 次にインターネットと接続する. KJMW ホームページのアドレスは, <http://proxy.kawasaki-m.ac.jp:8020/>

MWNET/Journal/ であるが、このアドレスでは、学内のファイア・ウォールのために、川崎医療福祉大学内からのアクセスはできない。学内からアクセスするためのアドレスは、<http://hitec01.mw.kawasaki-m.ac.jp/MWNET/Journal/> となる。

サーチ・エンジンは、いわば、インターネット上の探偵であり、ユーザーの必要とする情報を求めて、WWW 上を捜査する。サーチ・エンジンがなければ、必要なホーム・ページのアドレスを記憶したり、部厚いアドレス・ブックを手元に置いておくことが必要になり、ホーム・ページの数がますます増えつつある現在、サーチ・エンジンは必要不可欠なツールである。KJMW ホームページの内容は多様であり、検索も容易ではないが、サーチ・エンジンを利用することにより、ユーザーは KJMW ホームページを有効に活用することができる。

KJMW ホームページは、インターネットで最も規模が大きく、最も利用しやすいサーチ・エンジンに登録されており、可能な場合は日本語と英語の両方で登録してある。アドレスは次の通りである。

- (英語) <http://altavista.digital.com/>
<http://www.infoseek.com/>
<http://www.excite.com/>
<http://www.yahoo.com/>
<http://www.lycos.com/>
- (日本語) <http://www.infoseek.cp.jp/>
<http://www.goo.ne.jp/>
<http://www.yahoo.co.jp/>

KJMW ホームページのキーワードは、医療福祉学会誌 (medical welfare journals)、自然・社会科学学会誌 (natural or social science journals)、人文科学学会誌 (humanities journals) 等である。

KJMW ホームページの活用

KJMW ホームページにアクセスして最初に気が付くのは、画面の見やすさと便利さである。最初の画面は二つに分かれ、大きい方が主要画面であり、背景は青色である。小さい方がサイド・バー (補助画面) で、背景は黄色である。

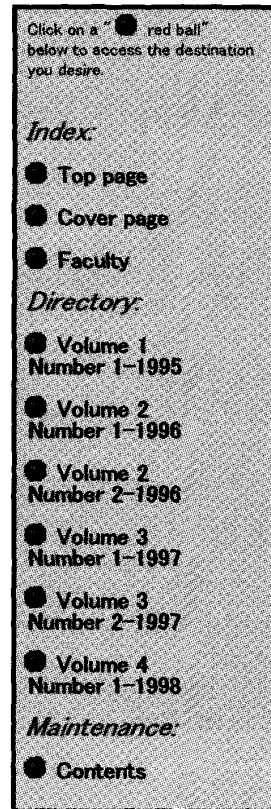


図1 KJMW ホームページのサイド・バー
ユーザーはサイド・バーによりホームページの内容を知ることができる。

このサイド・バーは大事な機能を持っている(図1)。この、画面の左側にあるサイド・バーは、いわば、専用サーチ・エンジンであり、常に画面上にあり、ホームページ内の案内役である。図1で示されているように、サイド・バーは、三つのカテゴリー、「索引」(index)「掲載論文一覧」(directory)、「メンテナンス」(maintenance)、からなっている。各カテゴリーの項目の左側の赤い丸印をクリックすると、該当する画面が即座に現れる。

最初の主要画面は「トップ・ページ」である(図2)。常に画面上にあるサイド・バーと異なり、主要画面は、ユーザーがサイド・バーで指示すると、それと同時に変わる。「トップ・ページ」では、図2で示されているように、川崎医療福祉大学の写真と、その下に、KJMW ホームページの簡単な説明とその目的が英語で述べられている。画面の最下部の電子メールアドレスは、プロジェクト・チームの代表者のもので、

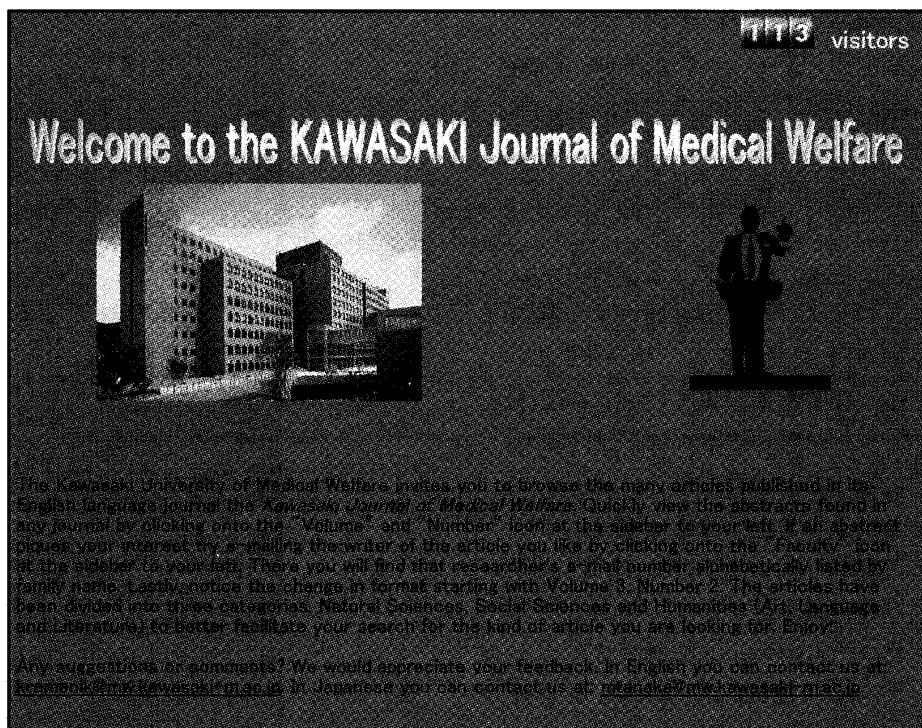


図2 KJMW ホームページのトップ・ページ
KJME ホームページの簡単な説明。

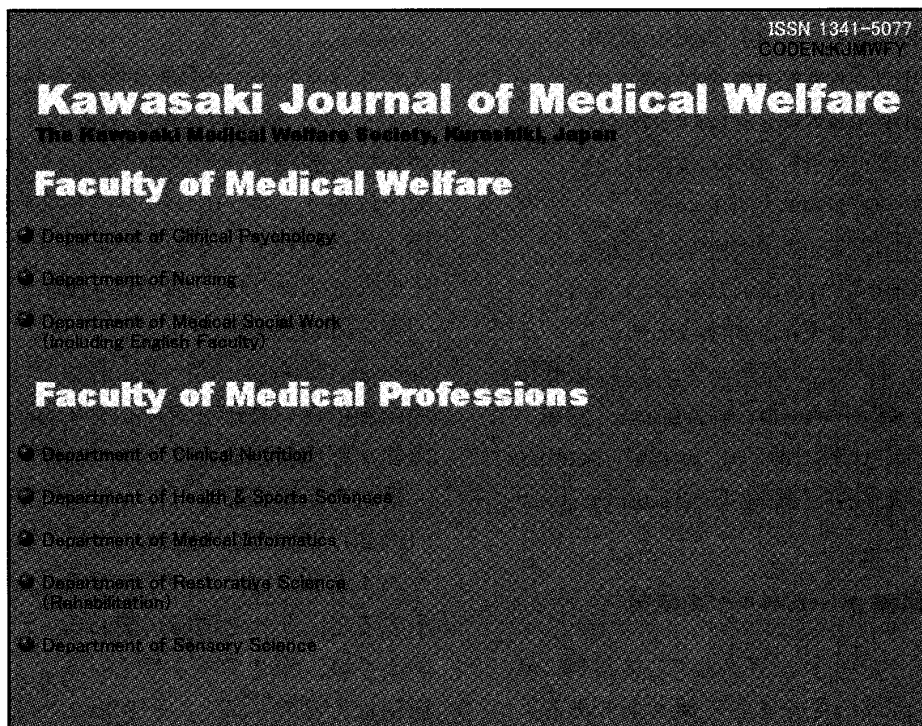


図3 KJMW ホームページの画面で示された川崎医療福祉大学の学部・学科構成
各学科 (Department) 名の左横の赤い丸印をクリックすることにより、学科所属の教員の電子メールのアドレスを知ることができる。

ISSN 1341-5077
CODEN KJMW

Kawasaki Journal of Medical Welfare
The Kawasaki Medical Welfare Faculty, Kawasaki-City

Volume 3
Number 2 1997

CONTENTS

Natural Sciences

1. The Effect of the Amount of Protein Intake on the Amount of Protein Metabolism in Mice
Yoshiaki Tanaka, Kazuo Tanaka, and Kazuo Tanaka

2. The Effect of the Amount of Protein Intake on the Amount of Protein Metabolism in Mice
Yoshiaki Tanaka, Kazuo Tanaka, and Kazuo Tanaka

Social Sciences

3. The Effect of the Amount of Protein Intake on the Amount of Protein Metabolism in Mice
Yoshiaki Tanaka, Kazuo Tanaka, and Kazuo Tanaka

4. The Effect of the Amount of Protein Intake on the Amount of Protein Metabolism in Mice
Yoshiaki Tanaka, Kazuo Tanaka, and Kazuo Tanaka

Humanities

(Art)

5. The Effect of the Amount of Protein Intake on the Amount of Protein Metabolism in Mice
Yoshiaki Tanaka, Kazuo Tanaka, and Kazuo Tanaka

(Language and Literature)

6. The Effect of the Amount of Protein Intake on the Amount of Protein Metabolism in Mice
Yoshiaki Tanaka, Kazuo Tanaka, and Kazuo Tanaka

7. The Effect of the Amount of Protein Intake on the Amount of Protein Metabolism in Mice
Yoshiaki Tanaka, Kazuo Tanaka, and Kazuo Tanaka

8. The Effect of the Amount of Protein Intake on the Amount of Protein Metabolism in Mice
Yoshiaki Tanaka, Kazuo Tanaka, and Kazuo Tanaka

図4 KJMW 最新号の目次

各論文タイトル左横の赤い丸印をクリックすると、論文の英文要約が画面に現れる。

英語でのコンタクト用 (kremenik) と、日本語でのコンタクト用 (tanaka) であり、ユーザーからのフィードバック用に示されている。画面の左隅上部には、KJMW ホームページにアクセスしたユーザーの累計数が示されている。

サイド・バーの索引部の第二の項目は「カバー・ページ」であり、クリックすると、KJMW の表紙が画面に現れる。次の項目は「教員一覧」(Faculty)であり、クリックすると、川崎医療福祉大学を構成する二つの学部名とそれぞれの学科名が表示される(図3)。ユーザーが、KJMW の論文に興味を持ち、その著者とコンタクトをとりたい時のために、川崎医療福祉大学の教員の電子メールのアドレスが画面に現れるようになっていく(KJMW に論文が掲載された外部投稿者のアドレスは除く)。論文の著者の所属する学科名をクリックすると、その学科に所属する教員の電子メールアドレス一覧(アルファベッ

ト順に並べられた教員名)が画面に表示される。

電子メールにより、迅速で、効率的なコミュニケーションが可能となり、この電子メールの能力が、このプロジェクトを企画する大きな動機の一つである。電子メールは、すでに様々な分野の研究者間のコミュニケーションに利用されており、将来、その重要性はますます高まるものと思われる。

サイド・バーの次のカテゴリー、「掲載論文一覧」では、KJMW の巻数・号数・年度が表示されており、希望する KJMW をクリックすれば、その KJMW の目次が画面に表示される(図4)。次に、目次中の希望する論文のタイトルをクリックすれば、その論文の要約が表示される(図5)。その要約の内容に興味を持ち、論文の著者とコンタクトをとりたい時は、索引カテゴリーの「教員一覧」の項目をクリックし、論文の著者の所属する学部・学科をクリックすれば、著

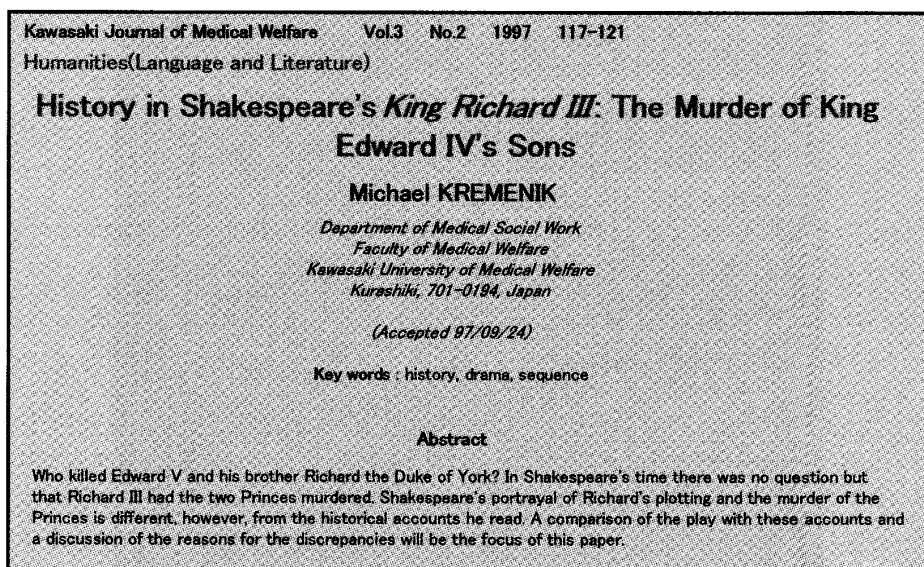


図5 論文の英文要約例

KJMW 3巻2号から。

者のアドレスが表示される。要約ではなく、論文自体がホームページ上に表示できるようになる返はこのような手順によるが、将来、論文がオン・ラインで見ることができるようになれば、ユーザーと著者の間で論文の内容についてのより活発な議論が実現するであろう。それが実現する返は、論文の抜き刷りか、ファックスで間に合わせなければならない。

最後のカテゴリである「メンテナンス」は、プロジェクトのメンバー用であり、唯一の項目である「内容」をクリックすることにより、KJMWの内容を更新し、訂正することができる。KJMWの4巻1号からは、全投稿論文がフロッピー・ディスクで提出されることになり、データをいちいち入力する必要がなくなり、自動的にデータ・ベースがメンテナンスされることになる。

おわりに

最後に、本論文を以ってこのプロジェクトが終了するのではなく、KJMWが発行されている間は、ホームページが継続されることは言うまでもない。プログラムやソフトウェアの進歩に歩調を合わせ、KJMWの内容・形態が変更されることもある。例えば、KJMW4巻1号以降は、アブストラクトをホームページに自動的にインプットできるようになる。

高度の情報化社会に相応しい形で、研究成果の公表形態を改革していくことが必要であり、今まさに各地で進行中の学会誌のオン・ライン化に向けての技術開発において、このプロジェクトが何らかの形で役立つことを願う。

本研究は平成9年度川崎医療福祉大学プロジェクト研究費によったことを付して感謝する。

文 献

- 1) ルメイ L (1996) HTML 入門 WWW ページの作成と公開. 武舎広幸, 久野禎子, 久野 靖訳, Prentice Hall Japan (L. Lemay 1995 Teach yourself Web publishing with HTML in a week, USA: Sams Publishing)
- 2) ジョンソン S (1998) サーバーサイドスクリプトによる Web アプリケーション. 山根ドキュメンテーション訳, 金子良治, 廣瀬直己監修, Soft Bank (S. Johnson 1997 Active server pages 2.0, USA: Que® CORPORATION)
- 3) 川崎克己 (1996) Java Script Master Bible, スパイク, 東京.